



▲ 今年の稲の豊凶を占った湯立神事

綴子神社例大祭の沿革
 綴子神社は、第37代斉明天皇5年(659年)に創建され、秋田県北部旧比内郡の総社で東北地方最古の八幡宮として、今に伝えられています。大太鼓の奉納で全国的に知られ、昭和54年に文化庁から国の無形民俗文化財の記録選択に指定されています。



▲ あでやかな衣装で華麗に舞う奴踊り

例大祭は、今から約750年前の弘長2年(1262年)頃、農業用水の不足に悩んでいた当時の綴子村で、雨乞いと豊作祈願の神事として始まったと伝えられています。太鼓は上町(徳川方)と下町(豊臣方)が、大きさを競い合ううちに巨大化。かつては先陣を争って奉納していましたが、昭和に入ってから毎年交代で行っています。

綴子神社例大祭

八幡宮綴子神社(武内尊英宮司)の例大祭が、7月14日、15日の2日間にわたり行われました。古式ゆかしい大行列が地区内を練り歩き、直径3・8mの大太鼓をはじめ、獅子踊りなど郷土芸能を奉納して五穀豊穡などを祈願しました。

大太鼓や郷土芸能を奉納

今年の当番町は上町。取り仕切り役の露払い太夫と「ヤツパリ」といわれる棒術の使い手を先頭に団旗、陣旗、豊年旗、槍や鉄箱を持った奴袴に陣笠姿の侍など約80人の大行列が、3張りの大太鼓を先導し、地区の北側から綴子神社までの約400mを練り歩きました。

綴子神社に到着後、境内で稲作の豊凶を占う「湯立神事」が行われ、武内宮司より今年「平年作以上」との結果が告げられました。

その後、地元の人たちや観光客が詰めかける境内で、勇壮な獅子踊りや奴踊りなどの奉納行事が行われました。今年は、13種類ある奴踊りがすべて奉納され、見物客から大きな拍手が送られていました。

伝統の継承と担い手育成

少子高齢化などの影響により、大行列の規模が年々縮小していることから、伝統行事の継承と担い手育成のため、今年、綴子上町自治会では市の市民提案型まちづくり事業の採択を受け、大行列への一般参加者募集を初めて実施しました。2日間で延べ7人が、祭典用の半纏を着用し、纏や槍などの装飾棒を携えて大行列に参加しました。



日本一の誇り 伝統を受け継ぐ

